

フロガイダマシ *Naticarius concinnus* (Dunker)

【選定理由】

個体群・個体数の減少、生息条件の悪化が選定理由としてあげられる。現在、県内の干潟で生貝が確認されている場所はない。三河湾・伊勢湾の湾口部では潮下帯より死殻は比較的普通に採集されているが、生貝が採集されることは稀。内湾域の個体群の生息状況は深刻である。ただし、本種は渥美外海の潮下帯では継続的に生貝が確認されているので、直ちに絶滅する可能性は低いとは考えられるが、将来的に絶滅危惧に移行する危険性がある種と評価された。

【形態】

殻長約 15 mm、ほぼ球形の巻貝で殻質は厚く、殻表は薄い殻皮で被われていて、光沢は無い。殻表には螺管に沿って濃茶褐色の雲状の模様帯が 2 本あり、その間の色彩は帯状に褐色になる。殻底部はクリーム色で、外唇、内唇もクリーム色。蓋は石灰質で厚く白色、表面に強い螺肋がある。



南知多町内海沖(ドレッジ水深 2-5 m), 2015 年 9 月 22 日,
木村昭一採集

【分布の概要】

【県内の分布】

愛知県内の内湾域での分布域は三河湾及び伊勢湾湾口部に限られ、死殻は比較的普通に採集されるが、生貝は稀 (木村, 1995 ; 1996)。2015 年の知多半島沖 (伊勢湾側) のドレッジ調査でも生貝が複数個体採集された (上図)。渥美外海の潮下帯の砂底からは継続的に生貝が確認されている。

【世界および国内の分布】

日本、朝鮮半島に分布する。国内では房総半島から九州の内湾から湾口部に分布する。瀬戸内海ではタマガイ科中最も減少傾向が著しい種として報告された (福田・木村, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

潮通しの良い砂底に生息し、本種が生息する海域は貝類の多様性も高い場合が多い。渥美外海の浅海域で操業する底引き網に入網したヒトデ類の胃中より生貝が採集されるが、生息海域は限られており、かつ個体数は少ない。他の貝類の殻に孔を開けて食べる肉食性であること以外、生態的特性についてはほとんど知られていない。

【現在の生息状況／減少の要因】

現在の生息状況については、【選定理由】の項参照。内湾域での著しい減少の要因としては、本種が潮通しの良い、泥分の少ない砂底に生息することから、水質汚濁、底質環境の泥質化、有機物量の増加などが考えられる。

【保全上の留意点】

現在本種が生息確認される海域の環境を維持することが重要である。特に、本種の生息基盤としての泥分の少ない砂底を含めた、干潟から潮下帯に連続する生息環境を保全する事が重要である。

【引用文献】

- 福田 宏・木村昭一, 2012. フロガイダマシ, p.59. in: 日本ベントス学会(編), 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285 pp. 東海大学出版会, 秦野市.
- 木村昭一, 1995. 日間賀島南部海岸の潮間帯付近の軟体動物相. 研究彙報(第 34 報): 16-27. 全国高等学校水産教育研究会.
- 木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

【関連文献】

- 木村昭一, 2000. 伊勢湾・三河湾でドレッジによって採集された貝類 (予報) . かきつばた, (26): 18-20.

(木村昭一)